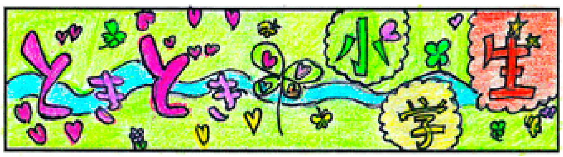
©河北新報社 2009

# NIE特集

Newspaper In Education



## 増田小

学校名　名取市立増田小学校
所在地　名取市増田３の９の20
電　話　022（382）2005
校　長　根来　英雄
児　童　751人

# 土砂運ぶ川の力知る

## 流水モデル実験器に挑む！

**知り隊**

私たち増田小5年生は、理科の教科書で「流れる水のはたらき」を学習しました。でも、川の流れが大地をつくることが実際にはどういうことなのか分かりにくいので、「流水モデル実験器」を作り、実験で確かめることにしました。指導していただいたのは担任の大滝学先生です。

### 陸地つくる様子観察

大滝先生には「流れる水には、地面をけずるはたらき（浸食）や、土や砂を運ぶはたらき（運搬）がある」と教えていただきました。教科書の写真をよく見ると、流れがゆるやかなところや河口に当たる部分には土や砂がつもっているところがあります。その部分をもっとはっきり見たくて、私たちは流水モデル実験器を作ることにしました。

材料は、ホームセンターで売っている衣装ケースや1年生のころによく使った油粘土です。理科室で、大滝先生に教えてもらいながら、水の流れる量を細かくコントロールする給水装置をペットボトルで自作したり、実験器に入れる土や砂も、わずかな水の流れでも砂が運ばれるように細かい海の砂をたくさん入れて調整しました。

ついに流水モデル実験器が完成しました。長さ90㌢、幅70㌢。山があり、上流から河口に水が流れて海に出る仕組みです。

さあ、実験です。給水係の人が慎重に水を流し始めます。山がどんどん浸食されていきます。川の中を土砂が運ばれていく様子がおもしろいように見えました。「河口に堆積する様子をよく見てごらん」と大滝先生は言います。運ばれていった土砂が流れのゆるいところや河口の部分につもっていく様子がはっきりと見えました。まるで川が新しい陸地をつくっているよう。実験は大成功でした。

実験の様子をふり返りながら、河口につもった「新しい陸地」が私たちが暮らす平野のもとになっていくことを学びました。私たちの住む名取市の平野は、北部は名取川が、南部は阿武隈川が長い時間をかけて作り上げたものだと知りました。航空写真を見てなるほどなと思いました。

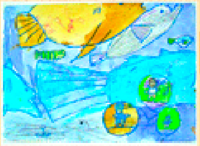
◇　◇

学区内を流れる増田川は、1994年の9月に大洪水をおこして、増田の町や閖上、仙台空港を水浸しにしました。そんな恐ろしい力をもつ川は、時に私たちが生活する大地を、長い時間をかけてはぐくんでくれるのです。とても不思議な気持ちになりました。

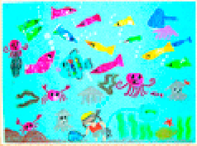
文・内山まりの、大村百栄、小椋優璃（5年）

流水モデル実験器。上流（上）の山側から河口（下）へ水が流れる仕組みになっている

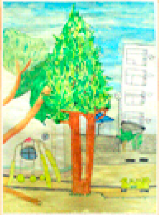
## うきうきキャンバス



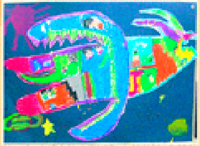
さめがくるぞ！
１年・伊藤久登



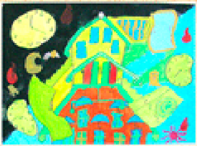
お魚とあそんだよ
２年・田村亜海



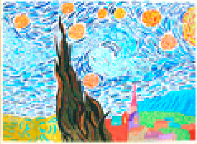
校庭の木　４年・丹野こころ



ドラゴンのうちゅうせん
３年・菅野龍太朗



異次元アパート
５年・高橋弘樹



光とかげと…
６年・穴沢実季

## 教え隊　七宝クラブ

### 作品 思い出に残せる

わたしたちが6年生の七宝クラブ員です

増田小には「七宝クラブ」があります。クラブ員は12人です。七宝の作り方は、お皿のようにくぼんでいる銅板のくぼんでいる側に薬をつけ、専用のかまで焼き、次は裏返して、盛り上がっている側に色つきの砂のようなものを乗せ、また専用のかまで焼きます。

来春卒業なので、クラブ最後の日が近づいています。自分の好きな銅板を注文してもらい、作ることができるので、いい思い出として自分の作品を残せます。とても楽しいので、皆さんにもぜひ一度体験してほしいと思います。

文・野口春華（6年）

## 言い隊

### ■大人こそマナー守れ■

私が大人に対して思うことは、社会のマナーを守ってほしいということです。一つ目は、ごみのポイ捨てをやめてほしいことです。私は大人がごみのポイ捨てしているところをよく見かけます。二つ目は、電車に乗っているときの態度です。これは高校生ぐらいの人に多いのですが、電車の中で携帯電話をしたり、乗り方についても、席はお年寄りにゆずりなさいと言うけれど、お年寄りが乗ってきてもゆずらない人が多いと思います。

大人は子どもに「○○をやりなさい」と言いながら、自分たちがやっていないことが多すぎます。大人がやらなければ子どもはいつまでもマナーを守れるようにはなりません。

（6年・渡辺歩未）

### ■誰でも使える設備を■

みなさんはユニバーサルデザインを知っていますか。ユニバーサルデザインとは、障害のあるなしや能力の差に関係なく利用できる施設などを言います。みなさんの身の回りにもありませんか。例えばエレベーター。階を押すところの下に点字がありますよね。あれもユニバーサルデザインです。目に障害のある人のために付けられています。ほかにも、電車のドアが閉まる時、ランプが点滅してアナウンスが流れます。ランプが点滅するのは耳に障害がある人のためにです。

私たちの周りには、たくさんのユニバーサルデザインが用いられています。誰でも使えるものがもっと増えるといいですね。

（6年・川村優奈）

## 編集後記

流水モデル実験器を使って本物のような川の流れを再現すると、「浸食・運搬・堆積」という流れる水のはたらきを見ることができました。自分たちで工夫した実験器を作ったのも楽しかったです。

私たちが一番おどろいたのは、河口に堆積した土や砂が陸のようになっていったことです。はじめはその部分が盛り上がったり、海の水が引いたりして平野になっていくのではないかと思いました。

6年生の理科の「大地のつくりと変化」の学習が楽しみになってきました。私たちはこのような実験を大事にして、また新しい発見をしていきたいです。

＜編集委員＞川村優奈、渡辺歩未、野口春華、高橋令以奈、村上瞳（6年）、内山まりの、大村百栄、小椋優璃（5年）　＜題字デザイン＞阿部友美、柴田梨奈、松原真沙紀（5年）　＜指導教諭＞坂本秀行、大滝学